

九条を踏みにじる海外派兵恒久法

海外での武力行使に道ひらく

これまで海外派兵は、事案ごとに特別措置法をつくり、国会の審議を経て自衛隊を出動させていましたが、政府はこのやり方をやめ、ひとたび制定すればその後は政府の判断で、いつでもどこにでも海外派兵できる「恒久法」をつくる準備を進めています。

その背景には、去年の参議院選挙の結果、改憲に悲観的な見方が自民党内にひろがった一方で、アメリカから自衛隊派兵の圧力が日増しに強まっているという事情があります。そこで「国際貢献」とか「国際平和協力」などの美辞麗句で粉飾して、解釈改憲をギリギリまで押し進め、九条の壁を突破しようとする意志を固めたものと思われま

す。恒久法のたたき台となる「国際平和協力量案」(石破試案)によれば、自衛隊はこれまでの人道支援や「物資・兵員の輸送」「給油」などの後方支援を大きく踏み越えて、武力行使を前提とした「安全確保活動」「警護活動」「船舶検査」を行うとしています。これは、アメリカ軍がイラクやアフガニスタンで行っている掃討作戦や海上阻止活動への積極的参加を想定したものです。

九条改憲の迂回作戦を許してはなりません。

7月の署名行動

【カッコは前月】

	行動回数	署名数	累計署名
高蔵寺駅頭	18 (17)	85 (67)	6,132
スーパー前	4 (4)	15 (30)	1,741
その他	1 (1)	11 (28)	896
合計	23 (22)	111 (125)	8,769

(注)累計署名数のうち、国会提出済みは7,358
名とは別に国民投票法案反対署名が456あり

7月の行動回数は前月とほぼ同じでしたが、署名数は減少しました。高蔵寺駅頭の署名数は伸びていますが、ニュータウン九条の会から応援が入った日と中学生17人が署名してくれた日を除けば、全般的に低調でした。カンパは13人から2,910円が

寄せられました。うち3人が中学生でした。

高蔵寺弾薬庫は無用です

岩成台在住 原 康彦

岩成台に住んで、もう三十数年になります。はじめのうちは、朝の自衛隊ラッパの響きが気になりました。高蔵寺駅とサンマルシェ、東は押沢台に囲まれた広大な緑の山が、航空自衛隊弾薬庫であることはご存じのところ

です。鉄条網で囲まれ、歩哨が四六時中監視し、猛犬もいます。ただの山なら横切って近道もできますが、基地侵入は銃殺もありです。それはともかく、駅からニュータウンの間を遮るように弾薬庫が鎮座している都市計画は、まことに異常な姿に映らないでしょうか。1960年にこのニュータウン計画が建設省で決まり64年に造成工事が始まりますが、当初の計画は弾薬庫がある高座山を含め、ここを第一工区として設計し、人口8万人を予定しました(現在5万人)。ここの都市計画は弾薬庫の撤去を前提にしていました。

ですから、60年代末には弾薬庫の移転先も決まり、撤去が具体化したのですが、自衛隊は居座ったまま。今では移転の気配は皆無です。当初の建設省と防衛庁の間で撤去の合意がなければ成り立たない都市計画でした。

いまのニュータウンは、当初設計と比べても欠陥都市計画で、街の真ん中に弾薬庫を抱える異常さです。ましてや、クラスター爆弾など自衛隊機の爆弾を貯蔵し、絶えず搬出入しています。事故は絶対に起こしませんという「神話」より、弾薬庫を無くせば安全です。それに、新しい都市計画の夢が生まれます。